

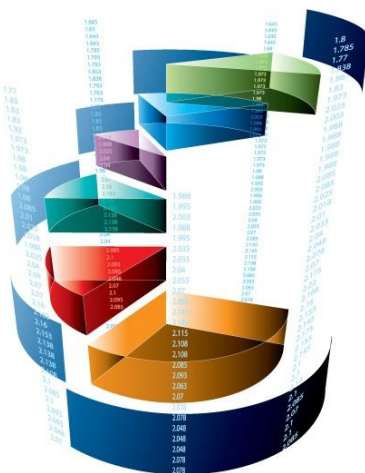
不正を検出するための分析メカニズム 「データ分析技術」



Association of Certified Fraud Examiner (ACFE: 公認不正検査士協会) の“Report to the Nation on Occupational Fraud and Abuse (職業上の不正と乱用に関する国民への報告)”2008年版によれば、不正による損失は企業の年間売り上げの7%にのぼります。ACFE の別の研究によれば、発見された不正のうち46%は不十分な統制のために発生しています。更に40%の悪用事例においては、統制が行われていませんでした。

ここでは、利益の流出と資金を回復するためにデータをどのように利用すればよいかを紹介します。

監査や不正検出を目的としたデータ分析技術が、注目されています。不正検出のためにデータ分析技術を使用する第一の理由は、多くの内部統制システムには統制の弱点があるからです。内部統制を効果的にテストし監視するために、組織は内部統制システムを流れるすべてのトランザクションを調べ、設定したパラメータ(条件)で、アプリケーション間やシステム間にわたり、異種アプリケーションとデータソースから、トランザクションをテストする必要があります。ほとんどの内部統制システムはこれに対処することができません。



一般的に内部統制システムには悪用または回避可能な何らかの弱点があるため、100%すべてのトランザクションを調べる必要があります。異なるアプリケーションやシステムからのデータを比較し、そこにあるべきでない一致点を探さなければなりません。または、不正の可能性のある動き(単に非効率のためかもしれない)を示唆する、トランザクション中の重複するエントリを探します。不正が発生したらそれが拡大する前に見つけられるよう、高リスク領域は自動化する必要もあります。

サンプリングはどうでしょうか？ サンプリングはいくつかの法的プロセスには必要ですが、包括的な統制テストには不十分です。考慮すべき点をいくつか挙げます。

- サンプリングでは、統制の失敗による影響を完全には測定できず、母集団内のエラーを予測することしかできません。
- サンプリングでは、多くの小さな異常を見逃す可能性があり、それらの異常は後に悪用され重大な違反を発生する可能性のある弱点を示していることがあります。
- 不正はサンプル中には表出しないため、不正を積極的に探しにくくするためには、すべてのトランザクションを見直す必要があります。
- 可能性のある異常すべての全体像を捕える必要がありますが、サンプリングではそれはできません。

データ分析技術のもうひとつの主要な側面は、行われたすべてのアクティビティの包括的な記録を保持することのできる技術です。

不正を発見した場合、不正の可能性のある動きを見つけるために何をしたら証明する必要があります。後に行われる追加調査や、場合によっては訴追が行われる場合もあるため、この証明は具体的かつ詳細でなければなりません。

ACFE、内部監査協会、アメリカ公認会計士協会がすべて、不正検出を支援するためにこのデータ分析技術の利用を提唱しているのはこのためです。

それでは、不正検出に使われる分析技術には他にどのようなものがあるでしょうか？ その例を、いくつか示します。

■ 統計的変数の計算

統計上の異常を識別するために、平均、標準偏差、最高・最低値など統計的変数を計算する。

■ 分類化

データのグループ間のパターンや関連性を見つけ、傾向や異常を発見するために分類する。

■ 階層化

数値を階層別に分け、利率やサービス料金など、一般的でないかけ離れた値を識別する。

■ デジタル分析

ベンフォードの法則を使って偽の値を識別する。

■ データの比較照合

データの結合または比較照合を行い、幽霊社員、社員・取引先の不正、システムの破壊を識別する。

■ 重複テスト

単純または複雑なパターンを識別する。

■ ギャップ検査

請求書や小切手の紛失を識別する。

■ グラフ化

営業時間外や週末での帳簿への入力など、不正の可能性のあるトランザクションを視覚的に識別するためにグラフ化する。

データ分析技術を使用したツールは、20年近く利用され、不正検出と、不正のリスクを識別するための内部統制の実効性を監視するためのものとして、その有効性が実証されています。



Smart Software, Smarter Deployment
株式会社エージーテック

本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-21-1 昭栄神田橋ビル3F
PHONE:03-3293-5300(代表) FAX:03-3293-5270
カスタマセンター PHONE:03-3293-5283

ACLの詳細は以下のWebサイトをご覧ください。

<http://www.acljapan.com/>

URL <http://www.agtech.co.jp/>